

CSR活動事例の紹介

東北支店 水圏部(河川) 有田 茂、黒川 信敏

当社ではCSR(Corporate Social Responsibility)活動の一環として、地域社会への貢献活動を行っています。事例として、東北支店が取り組んでいる広瀬川1万人プロジェクトおよび広瀬川流域一斉清掃活動をご紹介します。

はじめに

当社は「社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタントとして、公正・独立の精神を旨とし、常に技術の創造と学術の探究につとめ、社業の発展と社員の福利向上をはかり、もって社会に貢献すること」を経営理念としています。

この理念を実現するため「いであ企業行動規範」を定め、国際規格ISO26000を参考に、事業に関わるさまざまなステークホルダーや地域・環境に配慮した活動に取り組み、社会的責任を果たし、安全・安心で快適な社会の持続的発展と健全で恵み豊かな環境の保全と継承を支えることを目指しています(図1)。

ここでは、東北支店が取り組んでいるCSR活動事例をご紹介します。

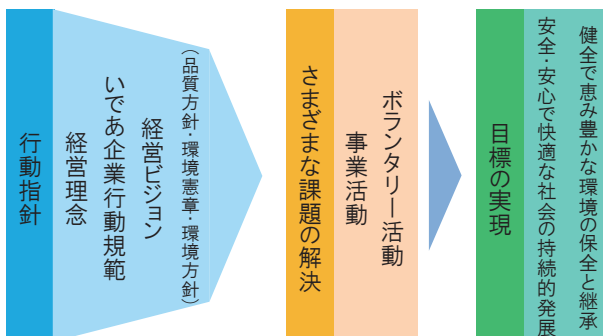


図1 当社のCSRの基本的な考え方

活動の経緯

社会資本整備・環境保全に携わるコンサルタント技術者は、専門技術力をもって社会貢献を果たすことを旨とする集団ですが、その専門技術力を形成するために必要とされる見識は、社会の変遷とともに多岐に及ぶようになってきています。

地域に対する理解度(ニーズ、評価、連携、等)もその一つです。当社の河川グループが本業で多く携わる治水計画を例にとると、治水事業では地域の理解・信頼を得ることが重要であり、今後20~30年間の河道整備を定めた河川整備計画においても、地域住民との連携、河川愛護活動の促進等の重要性が記述されています。また、全国の一級河川で河川整備計画がほぼ策定され、長大な延長を有するわが国の河川を適切に管理するために、地域との連携がますます重要になってきます。

河川に携わる技術者にとって、河川の現場を見て、地域の声を聞き、ともに活動することは、本業における品質を確保・向上させ、社会に貢献することにつながります。

これらを踏まえ、東北支店ではCSR活動の一環として、ボランティア活動(地域社会への貢献活動)を行っております。

(1)フィールド選定の観点

活動を開始するにあたり、支店内の窓口は、かわづくりやまちづくりに関する市民協働活動に対する見識を蓄積してきた計画部門の中から河川グループに決めました。

活動フィールドは河川を通じた地域貢献活動とし、第一段階として、既存の活動への参加・協賛を検討する方針を定め、以下の観点から活動フィールドの選定を行いました。

- ・河川を通じた地域貢献とあわせて、地域のふれあいや意識啓発活動等活動に広がりがあること
- ・民産学官の協働による活動であること
- ・継続性のある活動であること

(2)広瀬川1万人プロジェクトの特徴

上記観点から選定した活動が「広瀬川1万人プロジェクト」です。広瀬川1万人プロジェクトは、「杜の都」仙台のシンボルである広瀬川の自然環境を守り、多くの市民が親しめる広瀬川とするために、100万都市仙台の1%、1万人をキーワードとして2002年から続いてきた活動で、主な活動は年2回(春・秋)の流域一斉清掃です。そのほか、河川愛護意識の啓発を目的としたフォーラムの開催や、上位計画である「広瀬川創生プラン」の他の活動と連携した親水イベント等も行っています。

この活動の特徴の一つに、民産学官のうち、産(企業)の参画形態があります。主な活動である一斉清掃参加企業に対して、ボランティア活動参加証明書を発行することで、多くの企業が参加しやすい環境を整えています。これにより参加企業数は年々増加し、参加企業・団体より得られる協賛金を活動資金として10年以上にわたり活動を継続しています。

また、参加企業・団体は実行委員会に名を連ね、活動に参加するとともに運営にも携わることができます。

活動状況

東北支店では、2012年4月から広瀬川1万人プロジェクト実行委員会に参画し、主要な活動である年2回の広瀬川流域一斉清掃に参加しています(写真1)。

活動開始時の趣旨に沿って、参加会場は漂着ゴミがまだ多く残されていた流域下流部から選定するものとなりました。春の一斉清掃は開催会場が4会場に限定されていることから、支店の立地条件から参加が容易な宮沢橋会場に参加することにしました。秋の一斉清掃では参画当時、それまでの主要参加者であった学生参加者数の減少により人手不足が懸念されていた太白大橋会場へ人員を投入しました(図2)。



写真1 一斉清掃参加者の集合写真(2014年9月)



図2 広瀬川流域一斉清掃参加会場位置

各会場の運営担当は参加企業・団体に割り当てられ、当日の受付等を行います(写真2)。春の一斉清掃では、5月の連休を控えてイベントの準備が行われているなか、イベント会場となる高水敷を中心に清掃が行われました(写真3)。

初参加以来、当社では参加会場を固定して毎回一斉清掃に参加してきました。参加は職員の任意ですが、会場への移送手段の確保や芋煮会等のイベントとの連携等、参加しやすい環境を整え、人員を確保するとともに、家族の参加を呼びかけ、自然環境の大切さを体験する場として活用しています。



写真2 運営担当者による受付(2012年4月)



写真3 清掃活動の様子(2013年4月)

その結果、継続的な活動を維持しており、特に参加者数の少ない秋会場では、参加人員が確保できる団体(企業)となっております。

おわりに(今後の展望)

広瀬川1万人プロジェクトでは、現在の活動を継続して地域社会に貢献するとともに、より人手を必要とする会場への人員投入や運営(会場運営・実行委員会運営)への参画、上位計画である広瀬川創生プランへの参加等、活動領域を拡充することで、当社の行動指針に則したCSR活動の展開を検討しています。

今後は、広瀬川1万人プロジェクトへの参加により得られた経験や知見を生かして、新たな活動への参画や自社主催による地域貢献活動を展開することにも取り組みます。

また、職員一人一人が社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタント技術者として地域貢献活動で体験し学んだことを本業に活かし、より品質の高い成果の提供に努めてまいります。